

メッセージ 5

正常に進取的になり、心が純粹になって都の城壁を建造し、

神の家としての召会を分離し保護する

聖書：ネヘミヤ 1:1-11 . 2:4, 10 . 4:4-5, 9 . 5:10, 14-19

- . ネヘミヤ記は、エルサレムの都の城壁を再建する歴史であり、それは神の選民の間で彼の証しを継続する回復であって、神のエコノミーを完成します 2:9-20 . 参照、エゼキエル 13:3-5 . 22:30。
- . ネヘミヤ記の重要な点は、エルサレムの都が都における神の家の守りと保護であったということです：
 - A . これは、神の王国が領域として確立されて、地上での神の行政のための權益を保護し、神のエコノミーを完成することを、神の地上での住まいまたホームとしての神の家が必要とすることを表徴します 参照、ローマ 14:17。
 - B . 神の家を再建することは、神が墮落した召会を回復することを予表します。エルサレムの都の城壁を再建することは、神が彼の王国を回復することを予表します。神が彼の家を建造することと彼の王国を建造することは並行します マタイ 16:18-19。
 - C . 神の都は、拡大され、強化され、建造された召会であり、神の王国における彼の統治の支配する中心です。最終的に、神のエコノミーにおいて、神の家は聖なる都、新エルサレムとなり、神の永遠の住まい、また彼の永遠の王国の支配する中心となります 啓 21:2-3, 22 . 22:3。
 - D . わたしたちは命としてのキリストを認識し享受する時、神の家としての召会を持ちます。さらに進んで彼の頭首権を認識するなら、家は拡大されて都、神の王国となります エペソ 1:22-23 . 4:15 . 啓 22:1。
- . ネヘミヤの進取的であることは、今日の主の回復の中で正常に進取的になる必要があることを見せています：
 - A . モアブ人とアンモン人の指導者たちは、ネヘミヤがイスラエルの子たちの善を求めていることに、大いに怒りました。彼らは口トの不純な増し加わりの子孫であって、イスラエルの子たちを憎み、さげすみました ネヘミヤ 2:10, 19 . 参照、エゼキエル 25:3, 8。
 - B . これらの反対者たちのあざけり、さげすみ、そしりに対して、ネヘミヤはとても純粹で進取的であって、臆病になりませんでした ネヘミヤ 2:17-20 . 3:1-6 . 参照、使徒 4:29-31 . テサロニケ 2:2 . テモテ 1:7-8。
 - C . 神から助けを受けるのは進取的な人です。ネヘミヤのように、使徒パウロは神と連合し、この連合の中で神の助けを認識しました 使徒 26:21-22。
 - D . ネヘミヤの進取的であることは、彼の人の行為における美德であって、わたしたちの天然の能力、才能、美德がキリストの十字架を經過して、復活の中に、三一の神の究極的完成であるその霊の中にもたらされ、神のエコノミーを完成する中で、神にとって有益なものとならなければならないことを見せています。
 - E . ネヘミヤは彼の天然の人の中ではなく、復活の中で生きました。彼は進取的でしたが、彼の進取的であることは、他の人の特徴と伴い行きました：
 - 1 . ネヘミヤは神との関係において、神を愛し、地上での神の權益を愛した人でした。この權益は聖なる地(キリストを表徴する)、聖なる宮(召会を表徴する)、聖なる都(神の王国を表徴する)を含みます 参照、テモテ 3:1-5。
 - 2 . ネヘミヤは神を愛した人として、交わりの中で神に祈り、神と接触しました。城

壁を再建するために、ネヘミヤは神の言葉に立ち、神の言葉にしたがって祈りました　ネヘミヤ 1:1-11 . 2:4 . 4:4-5, 9。

- 3 . ネヘミヤは神に信頼し、神と一にさえなりました。その結果、彼は神の代行となりました　5:19 . 参照、　コリント 5:20。
- 4 . ネヘミヤは民との関係において、自己がなく、私利私欲がありませんでした。彼は常に進んで民のために、また国家のために、自分が持っているものを犠牲にしました　ネヘミヤ 5:10, 14-19。
- ・ネヘミヤは総督として、王の地位にあり、エルサレムの城壁を再建するために、神のエコノミーを完成することで心の純粋な人でした。彼は、神の民の間で指導者がどうあるべきかの模範でした　参照、　テモテ 3:2-7 .　ペテロ 5:1-3 :
 - A . イスラエルとユダの多くの王とは異なり、彼は利己的ではなく、自分の利益を求めず、情欲にふけりませんでした。
 - B . ネヘミヤは総司令官として、敵と戦おうとしていた者たちの間にいて、夜間の守衛に参加しました。彼はこれらのことを他の人に任せず、自らそれに参加しました　ネヘミヤ 4:9-23。
 - C . ネヘミヤと彼の兄弟たちは神を畏れたゆえに、十二年の間、総督のために準備される食物を食べませんでした　5:14-15。
 - D . 彼は都の城壁の仕事をし続けて、何の報酬も受けませんでした。彼は自己の追求をしないで、城壁を建造するために人を養いました　16-18 節。
- ・聖なる都の大きな高い城壁は、わたしたちを神に分離し、神の權益を保護し、神を表現するためです :
 - A . 都の城壁の機能は、都を神以外のすべてのものから神に分離し、聖別して、都を聖なる都とすることです　啓 21:2 前半, 10 後半 .　ペテロ 1:15-16 .　コリント 6:14 7:1 :
 - 1 . 聖なる都、新エルサレムの城壁は碧玉で築かれ、都の城壁の土台はあらゆる宝石で飾られています　啓 21:18-20 :
 - a . わたしたちは宝石としてのキリストの中で神聖な命にあって成長することにより(　ペテロ 2:4), 造り換えられて宝石となります(　コリント 3:12 前半)。
 - b . 宝石は造り換えを示します。わたしたちは造り換えられれば造り換えられるほど、ますます聖別されます　ローマ 12:2。
 - 2 . その霊の造り変える働きが神聖な命の中で進行している時、わたしたち、造り換えられた宝石は共に建造されて、一つの完全な城壁とその土台になりつつあります　コリント 3:6-12 前半。
 - B . 都の城壁の機能は、地上での神の神性の豊富の權益と、キリストの究極的完成の達成を保護することです。わたしたちはこの保護のために、御言から純粋な真理を解き放たなければなりません　参照、ヨハネ 17:17。
 - C . 都の城壁の機能は神を表現することです。神の外観は碧玉のようであり、碧玉の城壁は、永遠における神の団体の表現としての都全体が、神の外観を帯びていることを表徴します　啓 4:3 . 21:18。